

医療人類学3-1班発表 ～健康行動について～

3-1班

化粧水

皮膚に栄養を与え、なめらかにするために用いる液状の化粧品。

(デジタル大辞林より)

日本では水分に富んだ保湿目的
の化粧水がポピュラーだが、
米国には日本の化粧水にぴったり
相当するものがない。

これは何故だろうか？

諺

- 日本には「水が合う、合わない」という諺がある。
- しかし英語でこれを表現しようとする、“dose not agree with me(us)” や“doesn’t work for me (us)”になり、「水」が除かれる。
- →日本人は米国人に比べ、無意識のうちに「水」を重視しているのでは？

理由1：身体観

- 日本の伝統的な身体観では、「気」「水」「血」という3つの機能がバランスよく機能しているときに健康であると考えてきた。(1)
- 肌に水が足りなくならないよう、水分に富んだ化粧水をつけて保湿しようとしているのではないか。
- 一方、米国は多民族国家→そういう身体観があまりないのでは。しかも移民が多いので、比較的、故郷の身体観に執着しない人の集まりという見方も出来るのではないか。

理由2: 気候

- 日本は湿潤な気候
- 米は乾燥した地域が多い



- 米は乾燥が激しい地域が多いため、日本の化粧水のようなもので水分補給・保湿しても追い付かず、意味がないので、クリームやもっとハードな塗りもの(美容液)などをぬるのではないか。

理由1と理由2

- 理由2(気候)が理由1(身体観)をもたらしたとも考えられる。
- その他にも理由1(身体観)を生み出した要因はあるだろう。
- いずれにせよ、理由1(身体観)と理由2(気候)は密接なつながりをもっていると考えられる。

更に...

今までは女性中心の話をしてきたが、
男性はどうなのだろうか？

日本人男性と化粧水

- 日本では化粧水は、男性にはあまり普及していない(2, 桜井ら, 2007)
- 江戸時代の養育の場では、女子に対しては女訓序が体を洗って清潔にすることを説いたが、男子用の教科書にはそのような記述なし(3, 鈴木, 2003)
- これは清潔が「婦容の」という女子の徳目の一つだったことと深い関連をもつ(3, 鈴木, 2003)
- 江戸時代後期の化粧書『都風俗化粧伝』は、白く脂浮きしない肌を目指す手入れ法などを伝授(3, 鈴木, 2003)
- **どちらかといえば、女は美しくあるべき、男は何より中身、という信念があった(ある)のでは？**

しかし時代は変わってきている...



(4)



(5)

日本人男性と化粧水～ある調査結果 が語ること) 1

- 調査は、ショッピングセンターやドラッグストア、ディスカウントストア、コンビニ、スーパーで約2時間、店舗に来た客の行動を観察するというもの(2, 桜井ら, 2007)

日本人男性と化粧水～ある調査結果が語ること)2

- 若い男性は店舗でメンズコスメティック用品を手にとる、同伴者に商品についての問いかけをするなど商品に興味を持っていた。しかし商品のことが理解できない様子で商品を陳列棚に戻した。購買に至るケースはほぼ皆無。購買されたケースは、ワックスや汗ふきシートなど、いずれも男性消費者に浸透しており市場として成熟している商品だった。それらの購買者は、その商品を買うという目的を持って来店し、他の商品には目を向けなかった(2, 桜井ら, 2007)
- 中高年の男性は、来店人数が少なく、フェイスケア商品には全く興味を示さなかった。スカルプケア商品やシェイビング商品などの成熟市場に位置する商品だけに興味を示した(2, 桜井ら, 2007)

日本人男性と化粧品

- これから、若い男性は中高年の男性に比べて化粧水を含むコスメティック用品に興味を持っているが、購買には至りにくいことが推察される。(2, 桜井ら, 2007)



- 女性の社会進出が進み、男性の身体観も変容してきているのでは？

化粧品まとめ

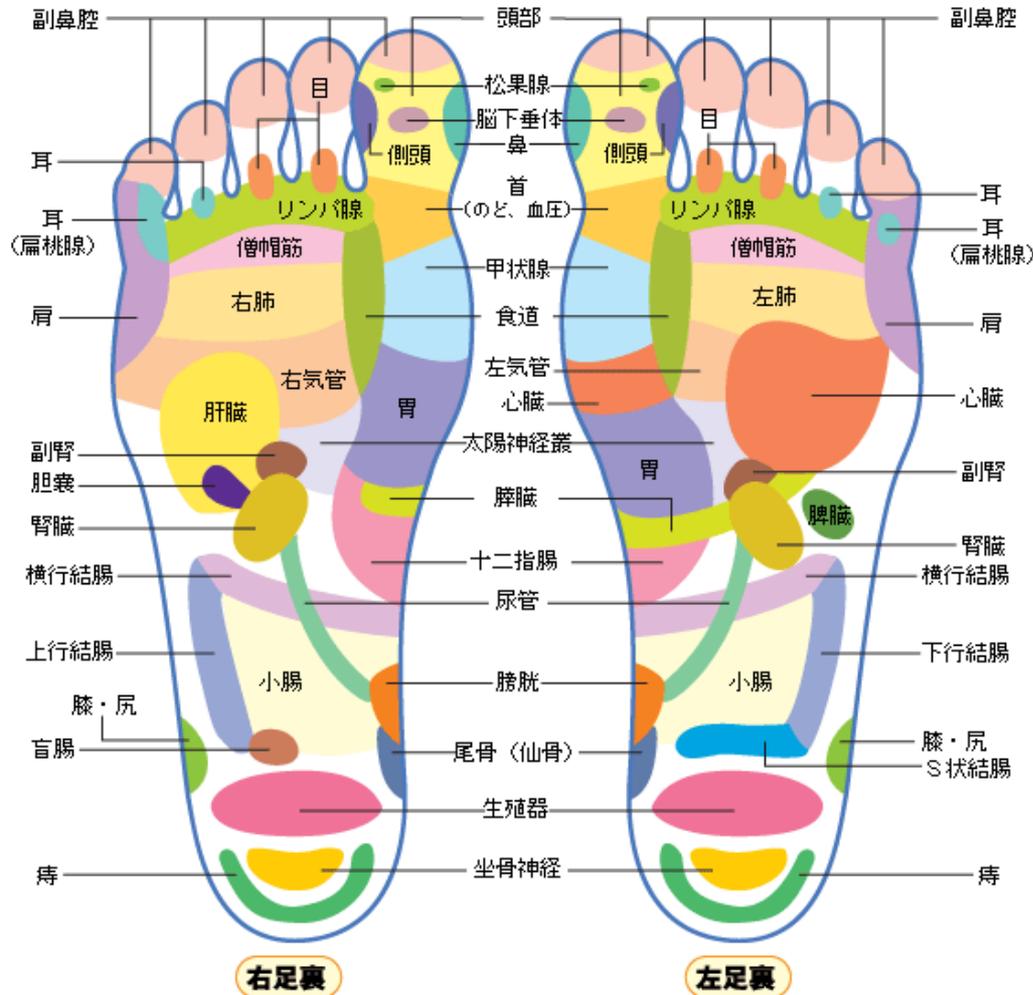
- 化粧品などの美容目的の健康用品のフィット感(使い心地や体質に合うかなど)は軽視されがちだが、グローバル化し、国境を越えた人々の行き来が益々盛んになると思われる近い将来に向けて、健康増進やQOLの向上においてもっと重要視するべきものだと考えられる。また、企業にとっては市場開拓・拡大において重要な指針を与えるだろう。
- 日本人男性の身体観の変容について、外国と比較したりしながら調べてみたい。

出典一覧

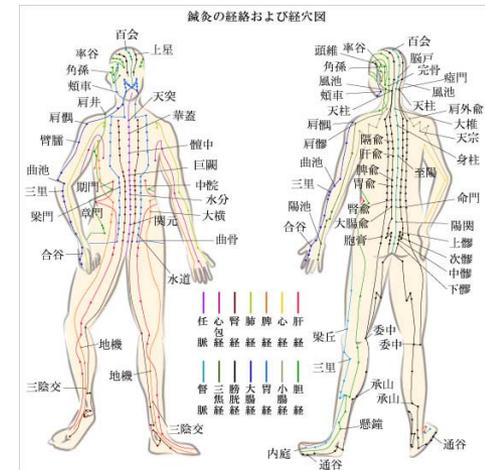
- (1) <http://blog.yo-jou.com/2010/03/6-682b.html>
- (2) 桜井純子・座礼理恵・野田千紘・ホウショウ(2007). 化粧品市場の拡大
- (3) 鈴木則子(2003). 日本の化粧意識の近代化をめぐる比較史的考察—清潔習慣の展開をめぐって, コスメロジー研究報告,11
- (4) <http://ameblo.jp/casaameba/entry-10480776896.html>
- (5) <http://yaplog.jp/tsubasanoegao/image/75/81>
- 様々な情報を与えて下さった米国オクラホマ在住の知人に心から感謝申し上げます。

經 穴

経穴＝いわゆる “ツボ”



- ・体内に360穴以上存在
- ・手足にツボが集中



東洋医学の思想<その1>

1.『陰陽五行説』

<陰陽説>

⇒宇宙の万物は陰と陽という二つの相反する要素によって成立しているという理念。※人の体も陰陽に二分される。陰陽のバランスが大事。

<五行説>

⇒自然界に起きるさまざまな現象を「木火土金水」という5つの要素に分類してその因果関係を説明しようという理念

陽	天	熱	男	明	清	気	腑	火	昼
陰	地	寒	女	暗	濁	血	臓	水	夜

◇五臓六腑:。「五臓」とは肺、脾、心、腎、肝、(心包)、「六腑」とは大腸、胃、小腸、膀胱、三焦、胆をいいます
五臓も六腑もともに五行に配当され、それぞれの役割などについて説明される。

東洋医学の思想<その2>

2・『**気**・血・水』

※気:エネルギー

⇒天地の間(宇宙)とは気が充満しており万物は気から出来ている。人も又宇宙の一部であり、気の凝集したものである。気とは連続的な流体であり、絶えず循環をしている。

- ◆生:「気」が集まる、循環する
- ◆病:「気」が滞る、詰まる
- ◆死:「気」が散る、止まる

★キーワード★
“ながれ”

3・『心身一如』

⇔「心身二元論」

足裏の経穴（ツボ）

・東洋医学において、ツボを点在する“駅”だとすると、ツボからの刺激を内蔵に伝える“線路”の役目を「経絡」という

◇経穴：外部との接点、刺激を受ける点。

◇経絡：刺激や「気」・「血」を全身へ運ぶルート。

・足の裏は全身を表し、そこに位置するツボは体のあらゆる部位とエネルギーの通り道で繋がっている。

※特に、近年、足裏の「反射区」と「脳波」が密接な関係にあることが判明し、注目されている。



足ツボから見られる身体観

★足の裏は“**第二の心臓**”

★足は心臓からもっとも離れている(=体の末端)

→老廃物がたまりやすく、異常が最初に見られる。

★足の経穴(ツボ)は、人の内臓や身体各器官、その他組織の**病変や変化**を、経絡を介し反映する

★『頭は天、足は地』

→陰陽経絡の流れで、天と地が一体になっている。天と地の「気」の均衡が健康へと繋がる

手相と東洋の身体観

◇手相◇



・昔、中国では、手相を病気の診断に用いていた

・手にも数多くの経穴(ツボ)が集中する

・指紋や手の皺より人となりや未来を見ることができる＝手相

⇒手は人そのものを表している！？

足裏&手⇔東洋の身体論

< 推論 >

身体、もしくは人そのものの“投影機”
なのでは？

参考文献・サイト一覧

(※足ツボ及び東洋医学に関する文献はほとんどありませんでした。)

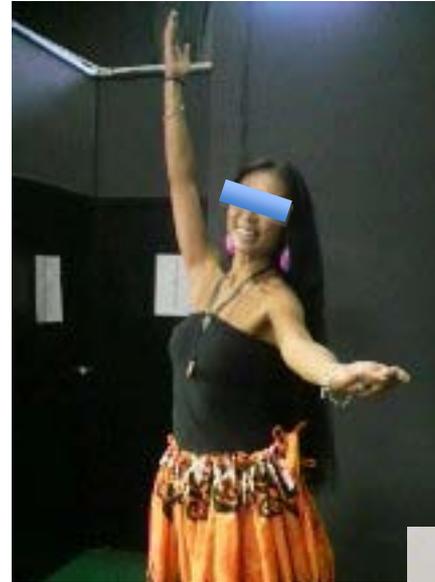
- ・東洋医学に関する総合サイト:
<http://www.toyo-igaku.com/>
- ・東洋医学の世界へようこそ:
<http://www.touyouigaku.jp/>
- ・あらき漢和治療院:
<http://www.onaoshi.org/nagare.html>
- ・足ツボと東洋医学:
<http://movie.geocities.jp/loveagain19th/>
- ・東洋医学の概念:
<http://www6.ocn.ne.jp/~keiraku/toyoigaku.html#top>

(画像はGoogle画像検索より)

フラダンサーから垣間見る 日本人女性の身体観

日本人フラダンサーの特徴

- 推定100万人
- 細かくパーマがかけられた長髪に焼いた肌
- 普段からハワイ風の小物、衣服を好んで身につける
- ハラウと呼ばれる教室に所属し、主催者やその教室が師事するハワイアの先生(クム)を強く支持する傾向がある
- 日本中、あるいはハワイにまで度々遠征し、知識や技術の習得に勤しむ人が少なくない
- 経済的な投資が大きい



フラとは

ハワイの伝統舞踊。踊りだけでなく、演奏、詠唱、歌唱の全てが含まれる。ハワイの王族に対する敬意、自然の賛美、恋愛についての曲(メレ)が主であり、生活形態、生産様式、性規範、美意識などが表現される。

カヒコ・・・古典フラ。ハワイの神々に対する祈禱、鎮魂が目的。
宗教的儀式。

アウアナ・・・モダンフラ。19世紀以降、欧米の音楽を取り入れて創られた。
白人男性中心主義的な、性的な産業としての意味合いを持つ。

特徴

- 群舞であるが、個々が自立的である。
- 伝統的に‘正しい’とされるスタイルが理想。
- 詩の内容を正確に表現することが最も重要とされる。
- 島ごと、ハラウごとに、詩の解釈や正しいとする動きが異なるが、それをリスペクトし合い、お互いが干渉し合わない風潮がある一方で、大規模な競技会が多数存在する。
- ビジュアルに対する規範性が高い。(衣装、装飾品のみならず、髪、爪、肌の色まで)

なぜフラが年配の日本人女性に受けるのか

歴史的背景

- 1930-50年代:戦前戦後のハワイアン音楽の流行
その頃の日本人女性・・・女児は皆おかつぱ(日本史上初の短髪主流)
- 1980年代以降:フラが日本人女性によってカルチャーセンターなどで教えられ始める・・・50年代に流行った曲に合わせて踊る
- 1990年代:ハラウの登場
‘本物の’フラを求める傾向が強くなり、若い世代のダンサーが増える。

精神的背景

- 群舞であるが、個々が自立的である。**反競争主義**
- 伝統的に‘正しい’とされるスタイルが理想。**没個性**
- 詩の内容を正確に表現することが最も重要とされる。**勤勉さが重視される**
- 排他的、家元制
- 欧米に対する憧れ
- ALOHAが響く(A - Akahai(上品さ、優しさ)L - Lokahi(調和)O - Olu'olu(思いやり)H - Ha'aha'a(謙虚さ)A - Ahonui(忍耐))

日本とハワイの身体観の共通点

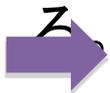
日本

「病は気から」に表されるように、**心が体に優位な心身一元的身体観**が見られる。血液型による性格形成への影響を信じたり、手相を気にしたり、脳死を受け入れがたい理由を「息をされていて温かい人間を死体と思えない」とする。

古代ハワイ

身体と精神と感情は互いに影響しあっているものと考えられた為、ネイティブハワイアンは身体と心は一つであるというホリスティックな世界観を持っている。つまり、身体の不調の原因は肉体そのものにあるのではなく、潜在意識、神経、筋肉、臓器など身体のさまざまな部分に組み込まれている感情的、精神的な面にも関係があると考えている。アメリカに属しながら、**東洋医学的感覚**を持っている。

裸足で踊ることに、健康感、自然回帰感を感じる。
心と体をいかにシンクロさせるかが美しく舞う秘訣であると感じ



年配の日本人女性がフラを好きな理由としてよくあげること

- 無理が少ないからおばあさんになるまで続けられる
- ゆったりしたハワイアンソングに合わせてドレスを着て花をつけて踊れて幸せ
- ハワイの自然を感じる事が出来る
- 友達が出来て楽しい
- ハラウという特別なつながり(フラシスター)
- いやみのない女らしさ

～潜在意識～

- 我々はフラをしている、という特別感を他者に誇示できる一方で、ハラウ内では謙虚に、みんなと一緒にいることが正しいので落ち着く。
- 年を重ね、うまく踊れないことも認められる。
- 年齢に見合わない露出、長い髪などに対して‘恥’を感じずに正当化できる。
- ALOHAと言えれば許される。

まとめ

- 歴史的背景、文化的背景に後押しされ、身体観の合うフラを日本人女性は好むようになった。
- しかしこれは、ハワイアンが生活の中で無理なく文化の一部として実践するようには行かない(穏やかで無理がない)
- 集団意識、家元制など、日本に根付く文化的精神性が完全なハワイ化を妨げ、むしろ非常に日本的になるという不思議な違和感を醸し出している。

割礼

ユダヤ教の割礼

- 男性器の包皮一部削除
- 男子が誕生して八日目に行う(『創世記』)。
- 宗教上の意味合い：
- 神との契約の印(切痕(マーク)が残る)。

その他の割礼をおこなう民族・地域

- ユダヤ教・イスラーム教
- ポリネシアやメラネシア、アフリカ各地の民族、
アメリカン・インディアン、オーストラリア・アボリジニ等
世界各地に分布(様式もいろいろ)
- 代表的な意味合い：
成人の儀式。
“性のアイデンティティを確立して初めて社会の一員として認められる準備が整う” (田中雅一、1994)

割礼とは

- 一般に、
「性器への身体的加工」を意味する。
- 積極的意味
→ 宗教的、社会の構成員として（次世代の再生産）
- 消極的意味
→ 衛生的（病気にならない）

――では、女性についてはどうだろうか？

女性器切除（FGM）

- 女子割礼とも
- 地域：
アフリカ各地（オーストラリア、南アメリカでも見られる）
- 解釈：
成人への通過儀礼
貞淑な女性

女子割礼に関わる問題

- 女性器切除（いわゆる「女子割礼」）は、「文化として受容できる限度」を超えているか？
だから規制されるべきか
- 女子割礼の意味合い（成人儀礼、貞操）の男子の割礼との比較

女子割礼に関わる問題

- 女性器切除（いわゆる「女子割礼」）は、「文化として受容できる限度」を超えているか？
だから規制されるべきか
→ 「文化だから」と手離しで相対化できる限度は？
- 女子割礼の意味合い（成人儀礼、貞操）の男子の割礼との比較
→

男女の割礼の解釈の比較

男性

- 積極的意味
次世代の再生産

- 消極的意味
衛生面（病気にならない）

女性

- 積極的意味

- 消極的意味
貞操を守らせる

男女の割礼の解釈の比較

男性

- 積極的意味
次世代の再生産
- 消極的意味
衛生面（病気にならない）

女性

- 積極的意味
「閉じられた空間に、
豊饒力が宿る」という
信念
(ジャニス・ボッディ)
- 消極的意味
貞操を守らせる

参考

- 田中雅一「割礼考—性器への儀礼的暴力」『現代のエスプリ』（1994），320:97-105

お わ り

ありがとうございました